

文化・芸術



「嶋田」

1840年ごろ、横中判錦絵
15・5寸×21・0寸

歌川広重 (1797~1858年)

東海道の旅も中ほど、駿河国と遠江国の境界にもなる大井川は随一の難所でした。本作は大井川を西・遠江側から見た風景で、遠景には富士山が見えます。

水量が多く、流れも急な大きな川。橋は架けられず、川の両側には川会所(かわかいしょ)が設けられ、渡る際には川札を買い、人足(ひとぞく)などを利用して輿(こし)や肩車で川越(かわごし)がされま

した。水かさが増すと川止めとなり宿で待つこととなったため川の両側の宿屋、旅籠(はたす)はた

東海道五十三次(大谷)の難所であることがわかりました。東海道屈指の難所をなす人足で表し、青を多用したさわやかな画面に仕上げられています。

〈名画の扉〉

大川美術館企画展「東海道五十三次漫画絵巻」と歌川広重「狂歌入東海道」から

(大谷)